

事務事業名	病院群輪番制病院運営補助事業				担当	健康福祉部健康増進課健康支援係			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり				電話番号	0285-81-6946		
施策名	7	地域医療体制の充実				☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ			
法令根拠	救急医療対策事業実施要綱（厚生労働省）					☒ 単年度繰返（開始年度昭和53年度～）			
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	1. 保健衛生総務費		☐ 期間限定複数年度（年度～年度）			
事業概要	休日及び夜間における入院治療を必要とする重症救急患者の医療を確保することを目的として、芳賀地区広域行政事務組合との連携のもと、地域の実情に応じて、病院群輪番制方式による「第二次救急医療施設」を整備し、初期救急医療施設及び救急患者の搬送機関との円滑な連携体制を構築する。 指定する医療機関としては、次の基準を満たす病院である。 医療施設、診察室、処置室、手術室、薬剤室、X線室、検査室を有する。 救急患者が必ず受け入れられるよう、病床を確保する。 平成19年度から病院群輪番制病院は芳賀赤十字病院の1病院が実施している。								

1. 現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 28年度実績 2次救急患者に対し、病院が休日及び夜間に診療を行うことに対する運営費補助を国1/3県1/3芳賀都市1市4町で1/3の負担で実施した。 負担金の支払い事務を年4回実施した。 29年度計画 平成28年度と同様				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
				名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
				ア	病院群輪番制病院数	所	1	1	1	1	1
				イ	負担金額	千円	26,207	27,699	26,327	23,670	23,670
				ウ							
				エ							
				オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 病院群輪番制病院				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
				ア	病院群輪番制病院数	所	1	1	1	1	1
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 休日や夜間の2次救急医療を確保する。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
				ア	病院群輪番制病院数	所	1	1	1	1	1
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 休日や夜間の2次救急医療を確保し救急医療体制の充実、救命率の向上を図る。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
				名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
				ア	救急車、救急病院の対応満足度	%	66.7	69.5	76.8	74.2	71.8
				イ	（市民意向調査）						
				ウ							
				エ							
				オ							
(2) 総事業費の推移											
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	26,207	27,699	26,327	23,670	23,670		
			事業費計（A）	千円	26,207	27,699	26,327	23,670	23,670		
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1		
			延べ業務時間	時間	8	8	8	8	8		
			人件費計（B）	千円	33	34	34	33	33		
			トータルコスト(A)+(B)	千円	26,240	27,733	26,361	23,703	23,703		
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等											
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		国及び県の補助事業により、昭和53年8月1日から芳賀赤十字病院を病院群輪番制病院に指定し、昭和53年度から芳賀地区広域行政事務組合との連携のもと、芳賀都市1市4町で補助を開始した。									
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		当初は芳賀赤十字病院だけが病院群輪番制病院に指定されていたが、平成17年度は、臨床研修医制度の影響で医師数が減少したため、芳賀赤十字病院でも医師不足が生じ、2次救急医療を福田記念病院、真岡病院、自治医大附属病院、獨協医科大学病院、済生会宇都宮病院に依頼した。平成18年度は芳賀赤十字病院、自治医科大附属病院、獨協医科大学病院の3病院に依頼し、平成19年度からは芳賀赤十字病院の医師確保により、芳賀赤十字病院の1病院に依頼している。									
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？											

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 国の救急医療対策実施要綱に基づき実施しているので、市民が安心して医療が受けられる市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 国の救急医療対策実施要綱に基づき実施しているので、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 国の救急医療対策実施要綱に基づき実施しているので、対象・意図は適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 二次救急医療施設として条件の整う医療機関は1箇所しかなく、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 国の救急医療対策実施要綱に基づき、2次救急患者の医療を確保しているものであり、廃止・休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 芳賀郡市で負担割合が決められているので、削減できない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費であるので、削減できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 芳賀郡市で負担割合が決められているので、公正・公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								